

# こんなことも 協働のまちづくり

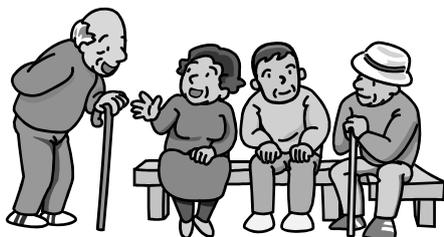
地域の絆で高齢者が安心して暮らせる地域づくり  
(神奈川県横浜市栄区)

## ●お互いさまねっと

高齢化や地域商店街の衰退が進み、食料や日用品など日常の買い物が増える中、「買い物弱者」が増えている中、神奈川県横浜市の南部に位置した、栄区公田町団地では、平成21年9月、住民によるNPO法人「お互いさまねっと公田町団地」を発足させました。お互いさまねっとは、お年寄りの買い物支援をはじめ、さまざまな見守り活動に取り組み、高齢者が安心して暮らせる地域づくりに大きな役割を果たしています。

お互いさまねっとが活動を始めたきっかけは、栄区公田町団地内で一人暮らしの高齢者が孤独死するケースが続き、孤独死対策モデル地区として指定され、タウンミーティング等を開き、そこで多かった高齢者の要望が、買い物手段の確保についてだったことです。昔、この地区は買い物に困りませんでした。が、パートやコンビニなどの撤退と高齢化が進み、現在は最も近いスーパーでも約50

0メートルほど離れた場所にあり、高齢者にとっては、一苦労です。そこで団地の中心部で、高齢者のために「あおぞら市」を開催し、お年寄りの方に買い物の機会を作りました。あおぞら市の売り物は、近くのスーパーや直売所から新鮮な野菜や魚介類を調達して、お年寄りに提供し、希望があれば部屋まで届けることもしています。



## ●元コンビニを利用し、高齢者同士のコミュニティを形成

別の活動として、元コンビニの店舗内に活動の拠点となる多目的センター「いこい」を設置し、あおぞら市の後などにお年寄りの方が気軽に立ち寄れるサロンや介護予防体操などの各種教室を開催するための「つどいの場」のほか、

物販コーナーやミニ食堂などもやっています。このような場を作ったことには、顔を見なくなった人がいると、他の利用者にさりげなく様子を尋ねるなどして気を配り、お互いに安否確認をすることもねらいです。

さらなる課題は、「活動を知らなくても足を運んでもらえる場にする」です。気軽に声を掛け利用を呼びかけるなど、地道な活動が団地住民の意識を変え、「郵便受けに郵便物がたまっているけど、大丈夫か」と自然に周りに気を配るようになります。持ちつ持たれつの関係で一緒にコミュニケーションを楽しんでいこうという地域の姿勢が高齢者を見守り、いづれは自分も見守られるような「お互いさま」精神が築かれています。



▲毎週火曜日に高齢者のために開催している「あおぞら市」